

所在地：目黒区中央町 1 - 20 - 26 東急東横線 学芸大学駅 徒歩 10 分

学校名： 鷹番小学校		作成年月日：H.11.12.01	調査日：H.16.07/16.7/23
施設タイプ		岩石園の一部を撤去し活用したシート型	
環境概況	植 物	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど陸地化しているが、スイレンが水面の 8 割を占め、水際にはミゾソバ、クサヨシなどが高く繁茂している。 ・水中にはオオカナダモが繁茂している。 	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> ・水面はほとんど見えないが、植物にギンヤンマのヤゴの抜け殻が多く確認された。 ・オオシオカラトンボ、キアゲハ、モンシロチョウ、クロアゲハ、シジミチョウ、コシアキトンボ、アシナガバチが飛来していた。 	
	水 質	<ul style="list-style-type: none"> ・水草があるため、透明度があり、良好である。 ・給水は、教頭及び主事が随時行っている。 	
	周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・池周りは観察時の踏圧により裸地化している部分がある。 ・南側の樹木（サクラ、ハナミズキなど）など、日陰にならないように周囲の樹木の整理が必要になっている。 	
	土 壤	<ul style="list-style-type: none"> ・東側など裸地化していた部分には泥が設置され、シートの下にも土が入れられ、水深確保の作業が行われている。 	
活動状況	管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の教師、児童がいないため、教頭や主事が随時草取りなどを行っている。 	
	管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の土が入り込むこと及び植物の繁茂により陸地化が進んでいるため、早急な改善作業が必要である。 	
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自由に利用できない場所であるため、授業での利用が主になり、一部の児童が休み時間に見に来る程度である。 	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> ・今後、担当の学年等を決定し、定期的な管理、観察を行う計画を検討していきたい。 	

作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	参加形態
H. 11.12.01	池の作成	2 年生
12 ~ 13.	水草取り、土手の補強	教頭
14.	水草取り、土手の補強	教頭及び有志
15.	周囲の草刈り、伸びた樹木の剪定	主事
16.08 10	草取り 清掃と整備	校長、教頭、主事 児童（3 ~ 6 年）

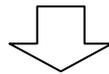
調査時(平成15年6月)



池の周囲はほとんどシートが露出し、草本環境の連続性が失われている。一方、池内には土が入り込み陸地化が進んでいる。



水中にはスイレンが立ち上がり、周囲はミゾソバやチゴザサが高く繁茂し、池の内部を観察できない状況である。



調査時(平成16年7月)

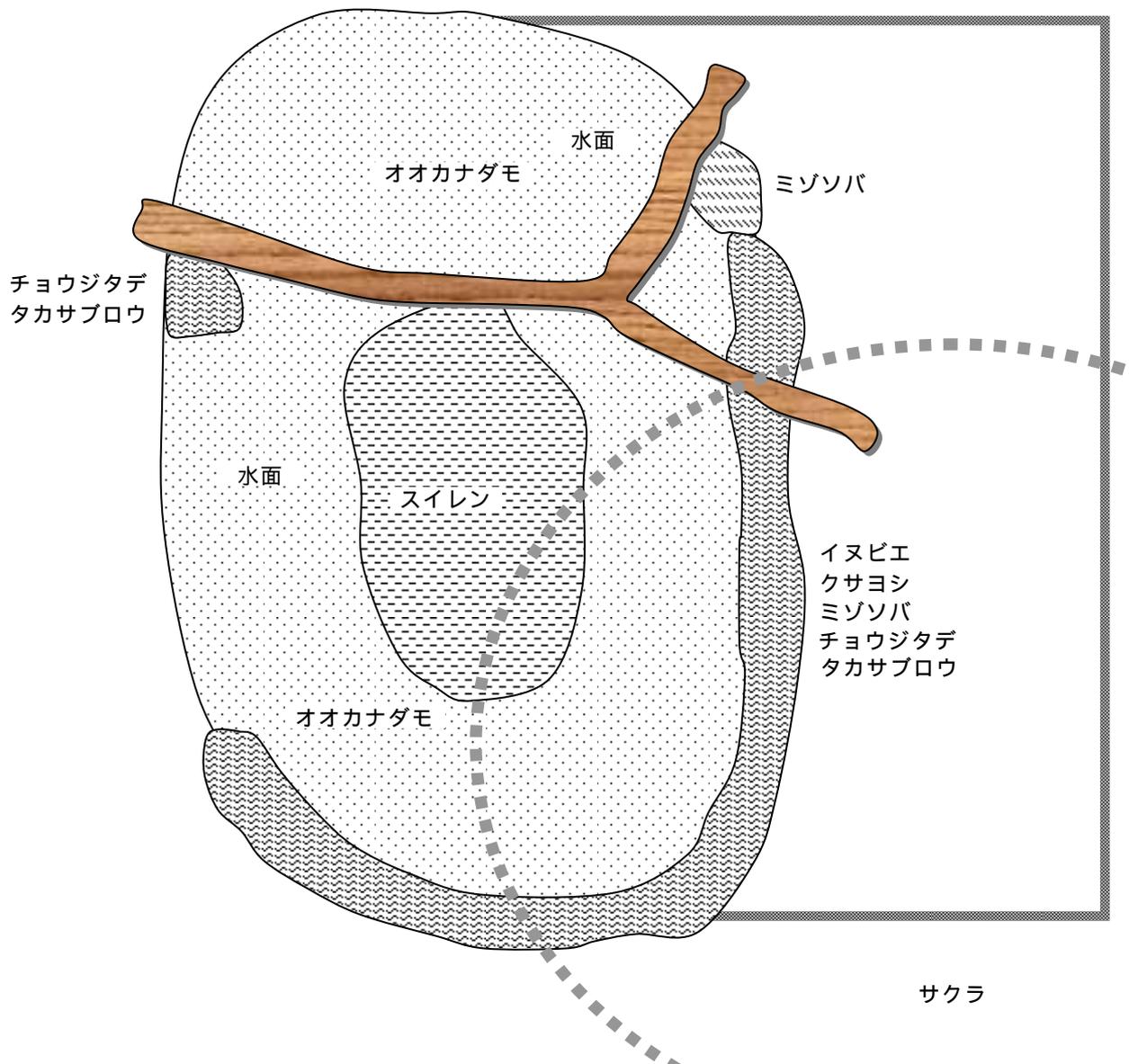
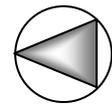


周囲に土壌が補給され、草本の生育環境が広がったが、水面を完全に覆う形になっている。



水草の生育は良好であるが、密度が高いため、観察活動が困難な環境になっている。

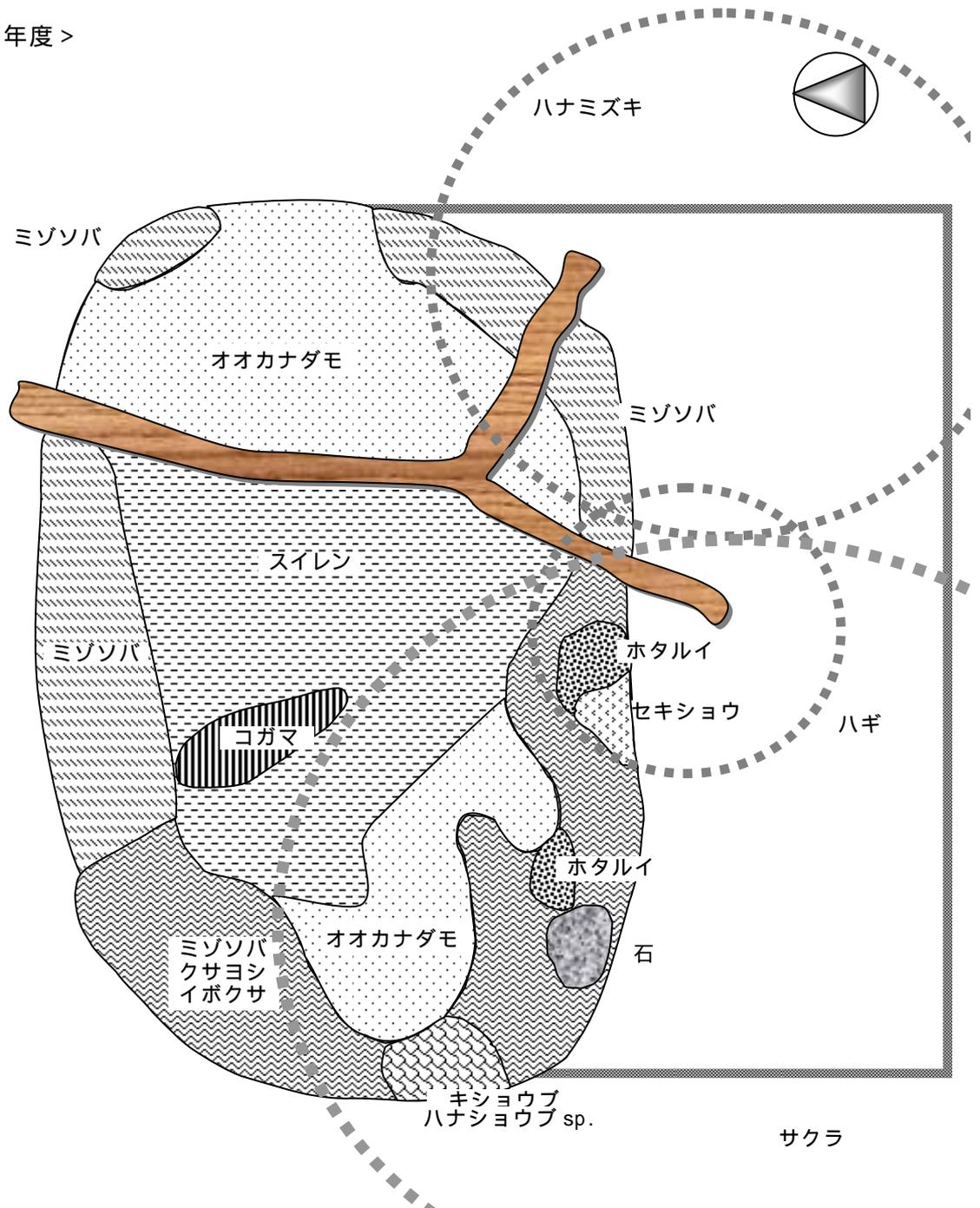
鷹番小学校
<平成13年度>



水際の植生が踏圧により生育範囲が限られている。周囲との連続性を持った多様な生きもの環境を維持するためには、立ち入り部分を決めて、植物の生育を優先する範囲を固定する必要がある。

また、上部を覆い陰となる桜などの高木については定期的な剪定により、日照を確保する必要がある。

<平成14年度>

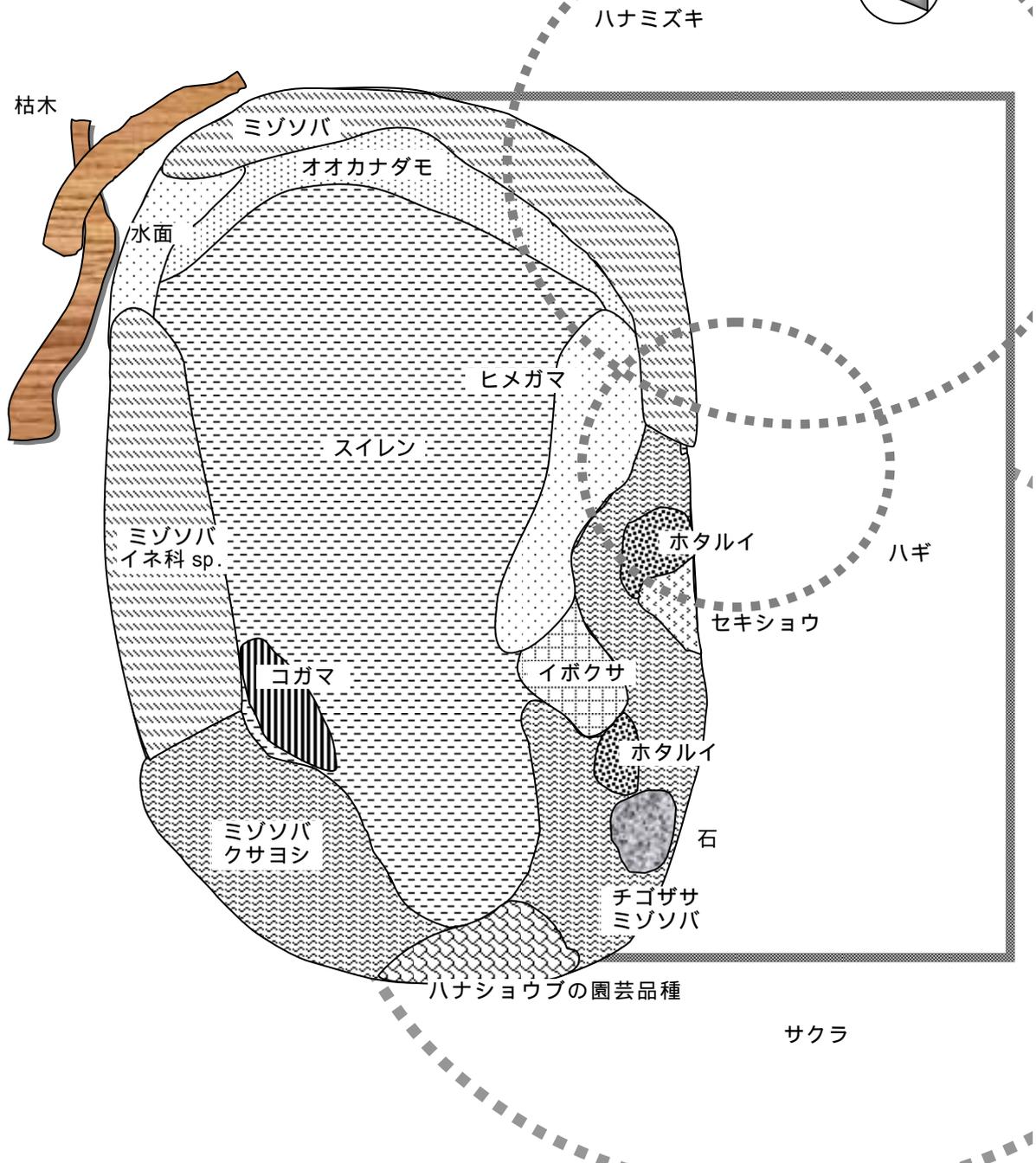


水際の植生が発達してきている。植物の中には多くの湿生植物が見られるものの、ミソソバやクサヨシなどの少数の種が優占しているため、多くの種を観察できるような工夫が必要である。

水中ではスイレンとオオカナダモが広がっているが、繁茂のしすぎによって小動物の観察に支障をきたすほどなので、スイレンは2割、オオカナダモはその大部分を除去する必要がある。

鷹番小学校

<平成15年度>

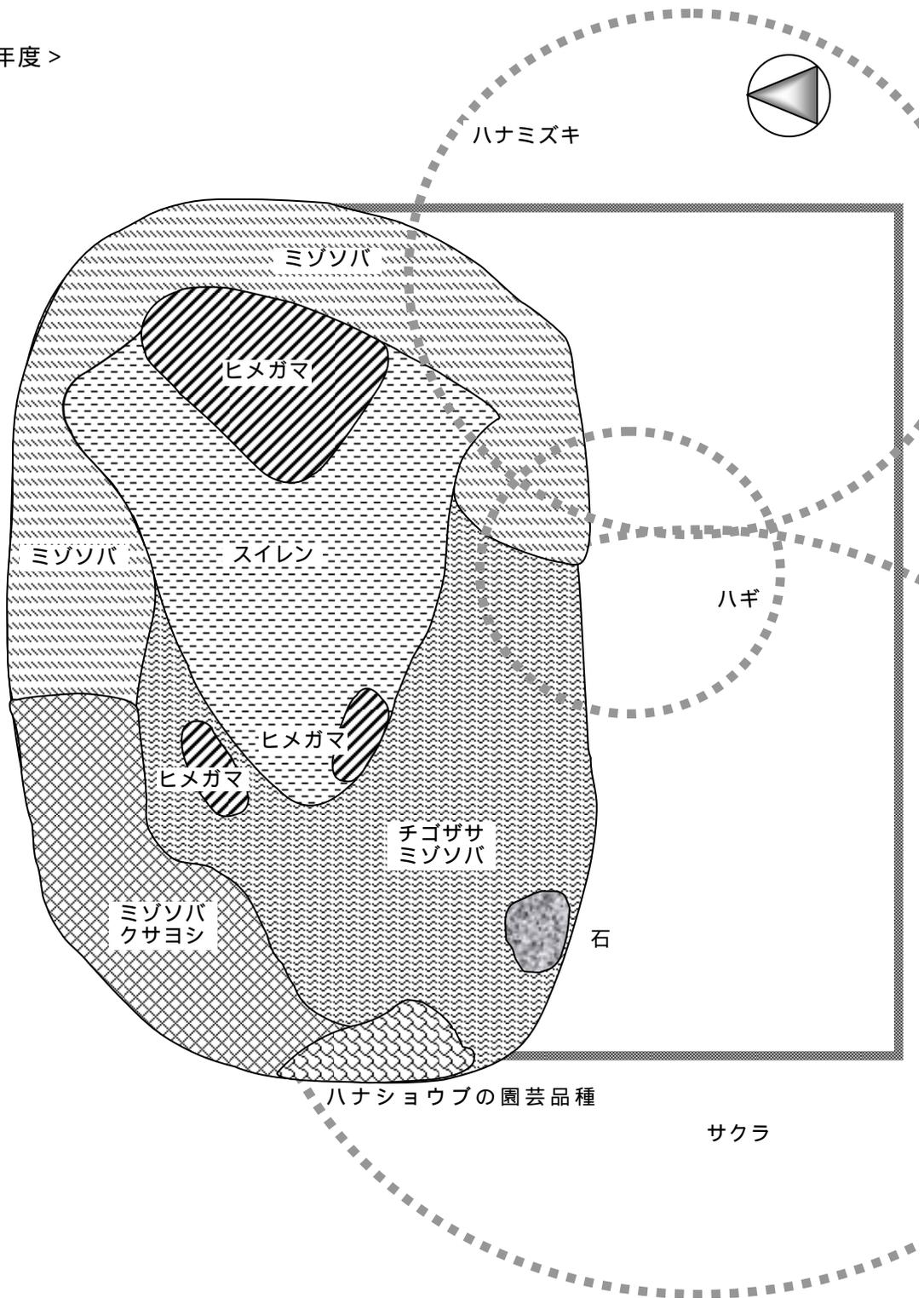


水際は、ミゾソバやクサヨシにほぼ占領され、一部にコガマ、ホタルイが見られる程度である。これは、陸地化が進んだため、水辺の多様な環境が失われた結果と考えられる。

水面はほぼスイレン及びオオカナダモに覆われ、かつスイレンは立ち上がっているため、水面をほとんど見ることができない状態である。

これらの環境改善のためには、これまで一度も実施していない児童参加による植物管理作業によって、優占種の抑制及び泥上げを全面的に実施する必要がある。また、南側のハギやミズキなどの樹木が伸長しており、今後数年の成長を見込んだ剪定作業が必要である。

<平成16年度>



池の水がほとんどなく、陸地化が拡大している。池部分は残ったスイレンやミソソバやチゴザサなどが密に繁茂する状態となっている。

ビオトープとして維持するためには、まず、池の水深、水面を保ち、池内の植物をスイレン、ヒメガマなどの水生植物を残して、ほぼすべてを除去する必要がある。